

2026年3月17日

各 位

会社名 大日本印刷株式会社
代表者名 代表取締役社長 北島 義斉
(コード番号 7912 東証プライム)
問合せ先 IR・広報本部長 若林 尚樹
(TEL 03-6735-0124)

新中期経営計画骨子の公表について

DNPグループは、2026年4月を開始年度とする新中期経営計画の骨子を策定し、2026年3月17日開催の当社取締役会にて決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

DNPグループは、2025年度（2026年3月期）を最終年度とする現中期経営計画の成果を踏まえ、持続的な企業価値向上を実現するため、新たに2026年度から2028年度までの3か年を対象とする新中期経営計画の骨子を策定いたしました。

詳細については、添付資料をご参照ください。

以上

新中期経営計画骨子説明資料

DNP

未来のあたりまえをつくる。

2026年3月17日
大日本印刷株式会社

- (1) DNPの150年の歩み・「P&I」の強み**
- (2) 現中期経営計画（2023-2025年度）の振り返り**
- (3) 次期中期経営計画（2026-2028年度）の骨子**

(1) DNPの150年の歩み・「P&I」の強み

創業150年～その先の成長を目指して

DNP

ブランドステートメント

「未来のあたりまえをつくる。」

DNPグループは、サステナブルな社会の実現を目指し、企業理念に「人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する」ことを掲げています。この理念に基づき、持続可能なより良い社会とより心豊かな暮らしを実現するために、長期を見据えて、自らがより良い未来をつくり出すための事業活動を展開しています。

創業
1876年

再建5か年計画
1951年

創業150周年
2026年

創業

第二の創業

第三の創業

出版印刷

DNPの祖業

拡印刷

印刷技術の応用・発展で
事業領域拡大

・包装・建材・エレクトロニクス
・情報セキュア・イメージング 他

P&Iイノベーション

印刷で培った技術・プロセス・スキルを起点に「社会の変化を先読み」し、
新たな価値を主体的に創出し、社会に提供し続けます

※「P&I」: Printing & Information

創業時から続く“挑戦のDNA”と“非連続的な発想による変革”

印刷技術の高度化、応用・発展

高度化された印刷技術を基盤とした付加価値の高い
製品・サービスを提供し続け、「未来のあたりまえをつくる。」

スマートコミュニケーション部門

ライフ&ヘルスケア部門

エレクトロニクス部門

DNP独自の強み (P&Iイノベーション)

高度化された印刷技術

情報処理技術

微細加工技術

精密塗工技術

後加工技術

強力な研究開発体制

高い特許競争力

生産設備の自社開発による
高い参入障壁

非連続的な発想で、変革に挑戦する組織風土

P&Iイノベーションにより生まれた主な製品・サービス

DNP

印刷の基本工程



高度化された印刷技術



DNPが提供する主な製品・サービス

◆ 世界トップ ◆ 国内トップ

◆ ICカード



◇ BPOサービス

◆ 有機ELディスプレイ製造用 メタルマスク



※外販用フォトマスクで
トップレベルのシェア



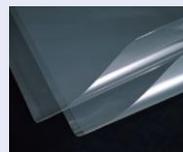
◆ 半導体製造用フォトマスク

◆ 写真プリント用 昇華型熱転写記録材



◆ 加飾フィルム、成形部品

◆ ディスプレイ用光学フィルム



※ハイエンドHMI市場で
トップレベルのシェア

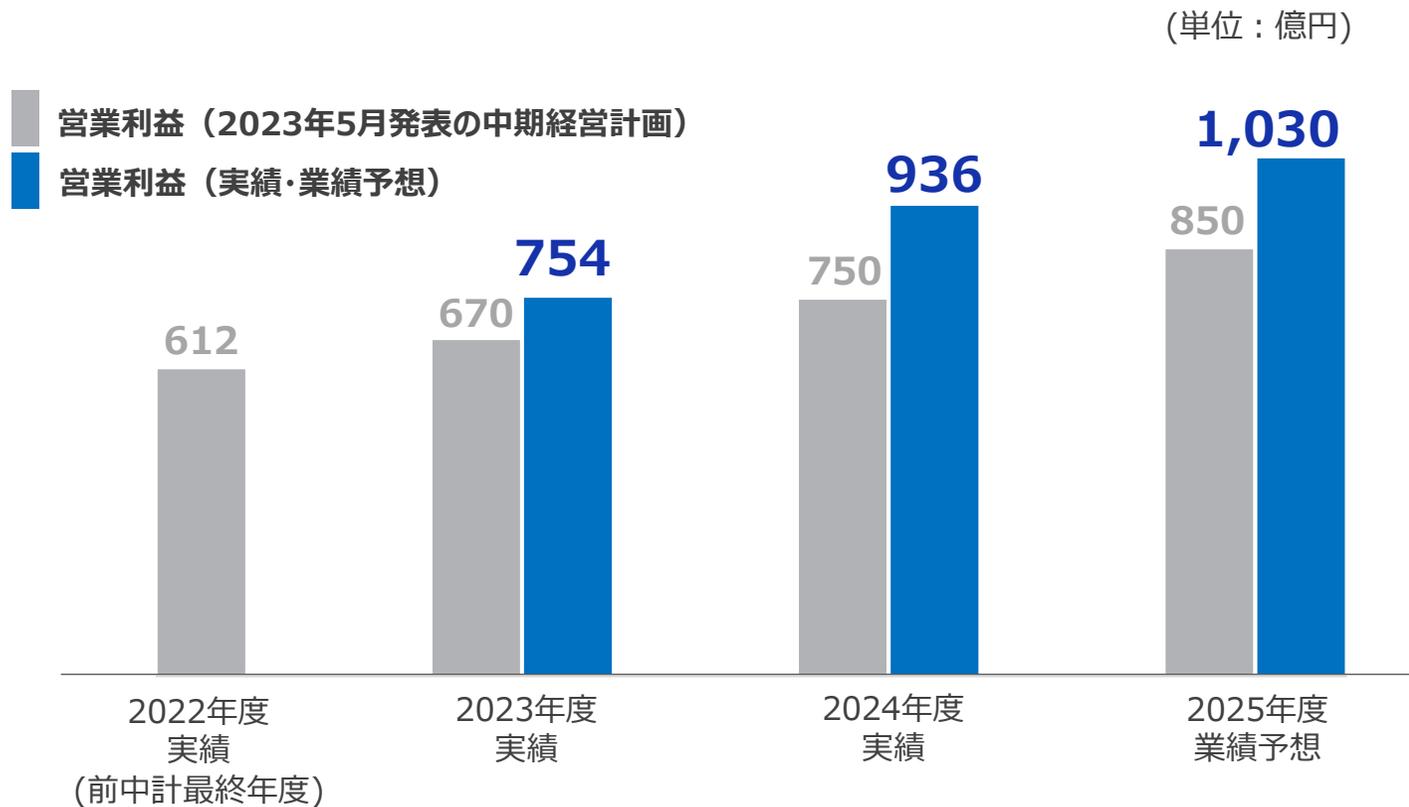
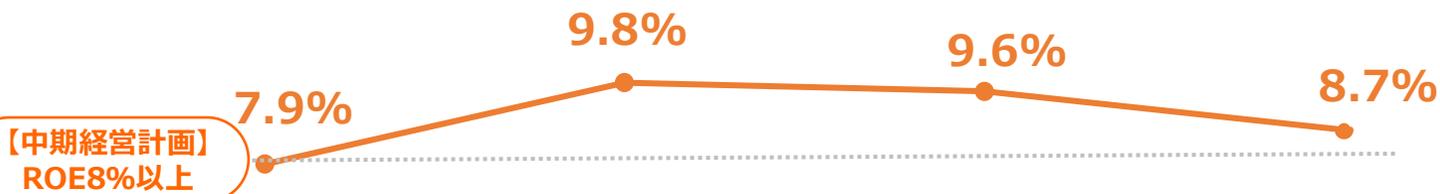
◆ リチウムイオン電池用 バッテリーパウチ



◆ PETボトル用
無菌充填システム

(2) 現中期経営計画 (2023-2025年度) の振り返り

現中期経営計画の振り返り① 営業利益・ROE推移



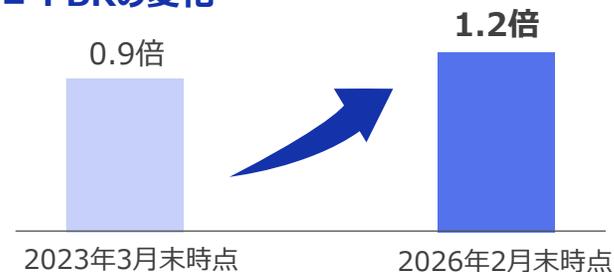
概況

中期経営計画で掲げた施策

- ✓ 注力事業領域への積極投資
- ✓ 再構築事業の構造改革
- ✓ 政策保有株式の売却、自己株式取得

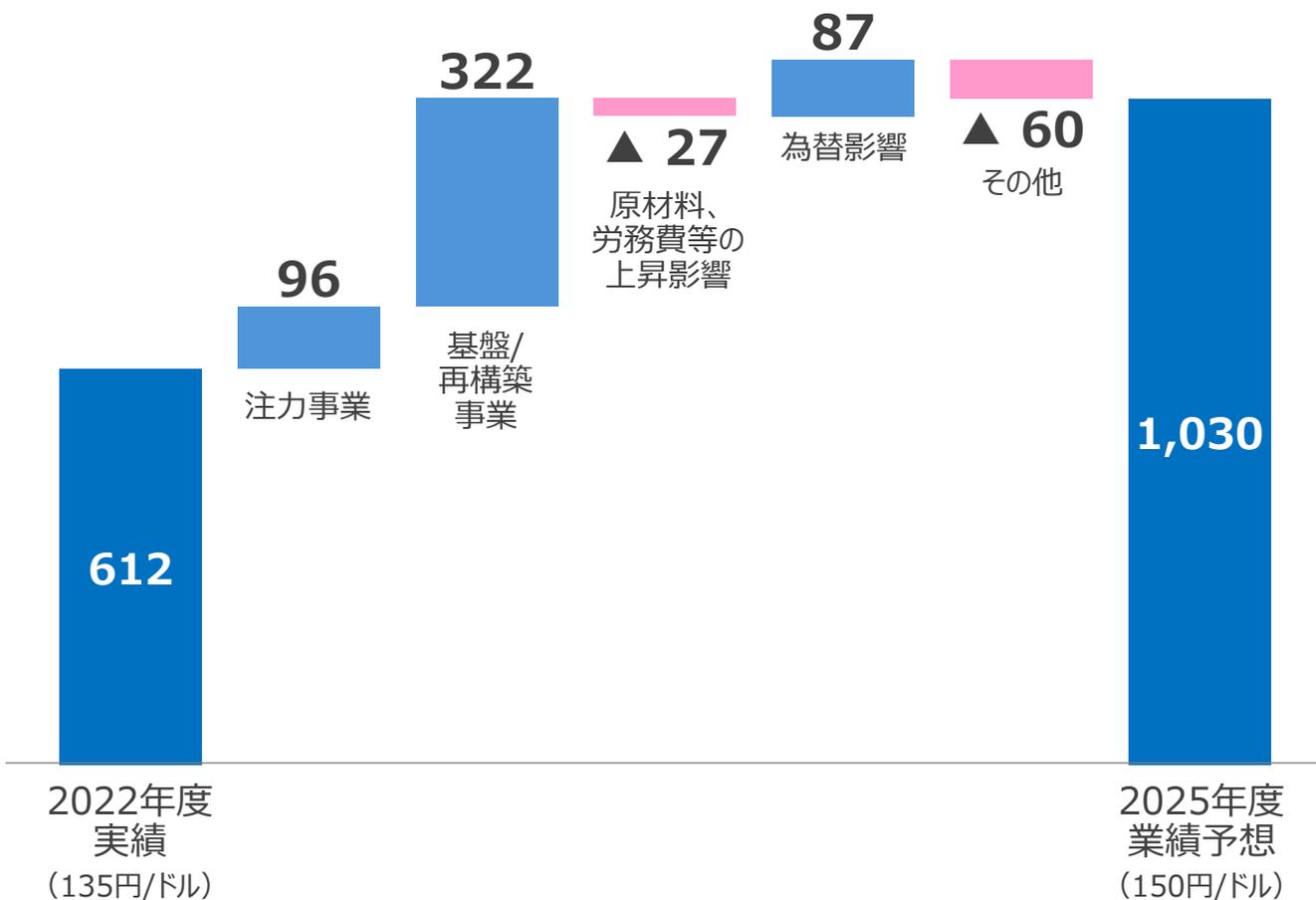
等を着実に実施し、**営業利益、ROEともに2023-2025年度のすべての年度で計画を上回る見込みとなり、PBRも1.0倍超を達成**

■ PBRの変化



現中期経営計画の振り返り② 営業利益増減要因（3か年累計）

(単位：億円)



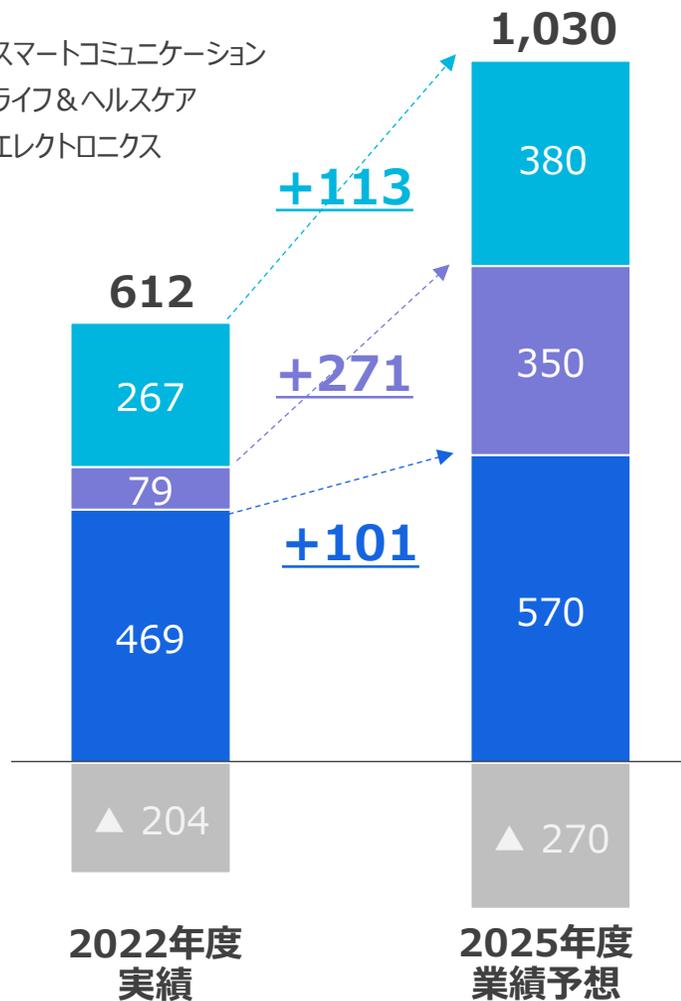
概況

- ✓ 注力事業は、デジタルインターフェース関連を中心に順調に拡大
- ✓ 基盤/再構築事業は、既存印刷関連の組織再編や収益体質改善の取り組みが寄与し、大幅に収益性が良化
- ✓ 注力事業領域を中心に積極的に投資を実施し、今後の持続的な成長へ向け事業基盤を強化

現中期経営計画の振り返り③ セグメント別営業利益の変化

■セグメント別営業利益の内訳 (単位：億円)

- スマートコミュニケーション
- ライフ&ヘルスケア
- エレクトロニクス



スマートコミュニケーション

- ✓ イメージングコミュニケーション関連等の事業が堅調に推移
- ✓ 出版関連事業や既存マーケティング関連事業の構造改革が寄与

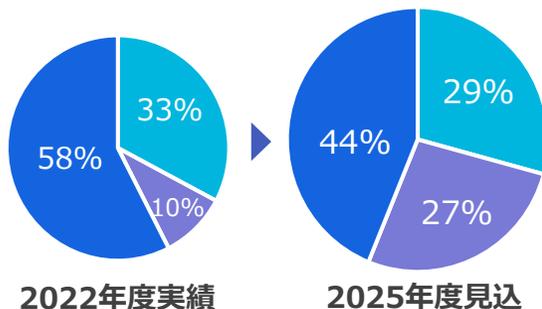
ライフ&ヘルスケア

- ✓ 包装関連は製造拠点再編やコストダウンにより収益体質が改善
- ✓ 生活空間関連はモビリティ関連との組織統合による効率化と成長力強化を実施

エレクトロニクス

- ✓ デジタルインターフェース関連が市場成長に伴い着実に成長
- ✓ 分野全体で中長期的な成長を見据えて積極的に成長投資を実施し、事業基盤を強化

■セグメント別営業利益構成比の変化

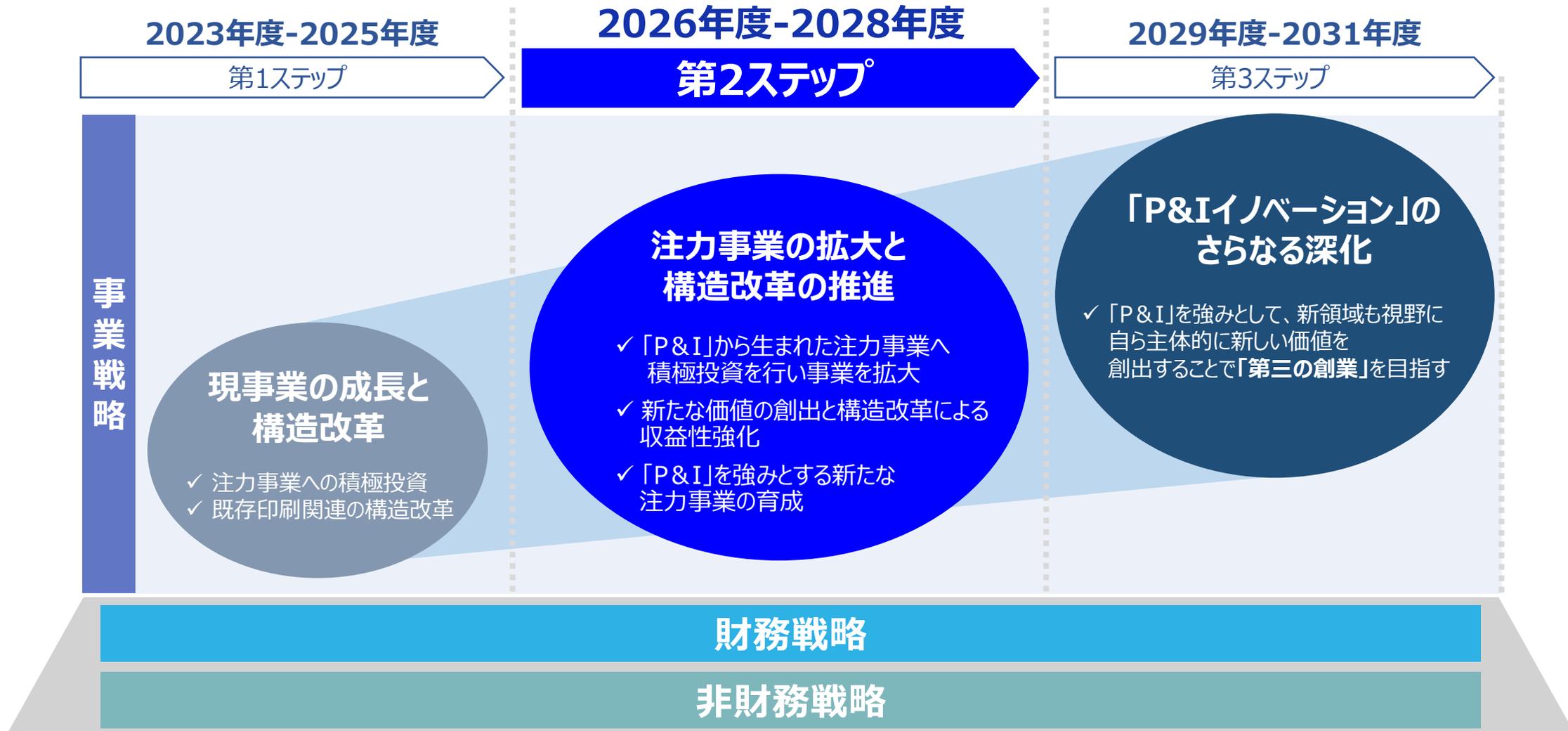


・注力事業の成長と持続的な構造改革により
全てのセグメントが利益成長した

・2026年度以降も、注力事業の更なる成長に加え、
新たな価値の創出と構造改革の継続により、
全てのセグメントで持続的な成長を目指す

(3) 次期中期経営計画（2026-2028年度）の骨子

「2026年度-2028年度 中期経営計画」の位置づけ



業績計画

DNP

2023年度-2025年度

第1ステップ

2026年度-2028年度

第2ステップ

2029年度-2031年度

第3ステップ

ROE

事業成長に加え、機動的かつ
継続的な株主還元を実施

7.9%

8.7%

9.0%

10.0%

営業利益

事業戦略の着実な実行による
継続的な成長

営業利益
CAGR8%

※過去最高営業利益は
2005年度の1,206億円

612
億円

2022年度
実績

1,030
億円

2025年度
業績予想

1,300
億円

2028年度
計画

1,500
億円以上

2031年度
計画

成長と資本効率向上の両立で
企業価値を最大化

PBRの持続的向上

注力事業の拡大と事業ポートフォリオの変革

注力事業の拡大と事業ポートフォリオの変革、及び、事業シナジーにより 3セグメントを成長させる

注力事業の拡大

高いシェア・良好な収益性・持続的な成長性を備える
注力事業領域に積極的な投資を実施

スマート コミュニケーション

情報セキュア関連
(ICカード、BPOサービスなど)



フォトイメージング関連
(昇華型熱転写記録材など)



ライフ& ヘルスケア

モビリティ関連
(自動車用内外装加飾フィルムなど)



産業用高機能材関連
(バッテリーパウチなど)



エレクトロニクス

デジタルインターフェース関連
(光学フィルム、メタルマスクなど)

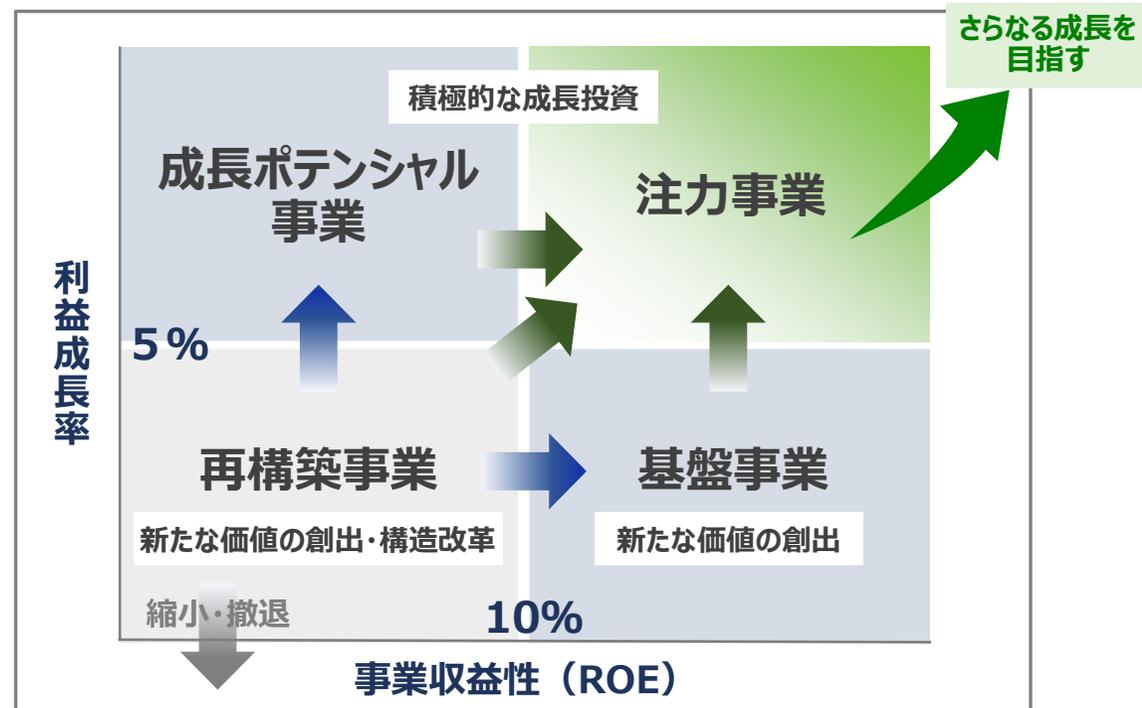


半導体関連
(半導体製造用フォトマスクなど)



事業ポートフォリオの変革

新たな価値の創出と構造改革の推進により
事業ポートフォリオを変革し、資本効率を向上



※3セグメント：スマートコミュニケーション、ライフ&ヘルスケア、エレクトロニクス

「2026年度-2028年度 中期経営計画」における戦略

DNP

各戦略における施策

※26年5月の中期経営計画公表時には定量的な計画値を開示予定

事業戦略

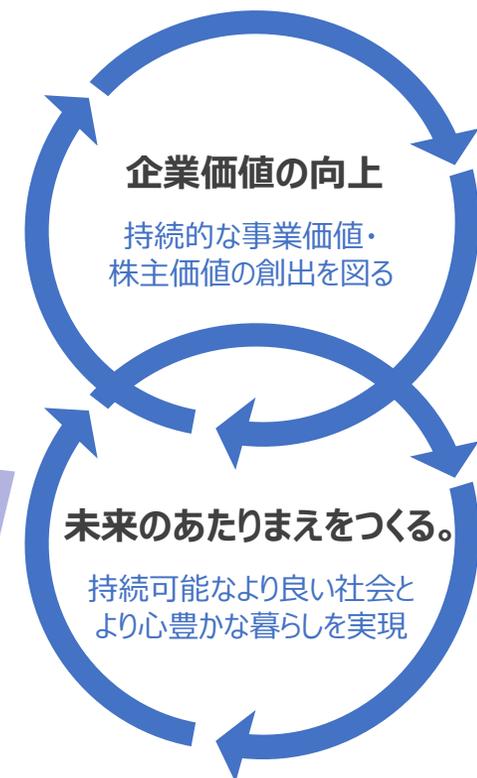
- ・ 「P&I」から生まれた**注力事業へ積極投資**を行い事業を拡大
- ・ **新たな価値の創出と構造改革の推進**による収益性強化
- ・ 「P&I」を強みとする**新たな注力事業の育成**

財務戦略

- ・ **成長投資の原資は、営業CFの拡大に加え、政策保有株式等の資産縮減や有利子負債の積極活用により、資金効率を最大化して創出**
- ・ **利益成長に応じた累進配当および配当性向の引き上げによる配当水準の向上**
- ・ **自己株式の取得は、成長投資とのバランスや株価水準、資本効率を考慮し、機動的かつ継続的に実施する**

非財務戦略

- ・ 「**人への投資**」の拡大による「**人的創造性**」の向上
- ・ **知的資本の高度化**による競争力向上
- ・ **ネイチャーポジティブなバリューチェーンの実現**



未来のあたりまえをつくる。

DNP

免責事項

本資料における業績予想及び中期的な経営目標等、将来予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの将来予想とは異なることがあることをご承知おきください。